



【石垣島の各洞窟における確認個体数の割合】

【石垣島の洞窟における平均個体数と確認頻度】

- : 残存
- ▲ : 洞窟閉鎖または洞窟消失
- ◆ : 事業実施区域周辺以外の洞窟

※平均個体数=延べ確認個体数/確認回数
 ※確認頻度=確認回数/調査回数
 ※調査による生息妨害の影響がみられたデータは、解析から除いた。
 ※夜間入洞時のデータは解析から除いた。

図-6.12.1.2(18) 石垣島内の個体群の中での5洞窟におけるヤエヤマコキクガシラコウモリの個体数割合及び平均個体数と確認頻度

【カグラコウモリ】

土地の改変に伴いカグラコウモリにとっては、表-6.12.1.2(15)に示すとおり、B、C及びE洞窟が利用できなくなる。B及びE洞窟では、通年で見ると平均個体数は1個体以下、確認頻度は約20%であり、石垣島内の個体群の中での個体数の割合はそれぞれ1%に満たなかった(図-6.12.1.2(19))。また、C洞窟でも通年でみると平均個体数は約3個体、確認頻度は約80%であったが石垣島内の個体群の中での個体数の割合は1%に満たなかった。これらのことから、石垣島のカグラコウモリの個体群にとって、B、C及びE洞窟は平均個体数や確認頻度及び石垣島内の個体群の中での個体数割合という面からみて比較的重要性は低いと考えられる。このため、B、C及びE洞窟が利用できなくなることによる石垣島のカグラコウモリ個体群の生息状況の変化は小さいと予測される。